

観光技術検討会の活動（実施体制及び取組）について

2023年7月20日

JTREC

観光技術検討会 Lead 板垣 和芳

1. 活動の趣旨_1

- 既開発事項をふまえて技術的な理解を深めると共に、新たに必要な開発作業を進める。
- 特に国連CEFACTの開発仕様や技術に関しては、旅行観光分野の対象技術の権威ある理解者になるように努める。

ア. 既開発対応技術事項

- EPs TAの技術対応、STビジネス標準技術対応等

イ. 新規開発対応技術事項

- EPs TA（第2版）対応、STビジネス標準（将来第2版が提案された場合）対応、観光業界のバックオフィス対応等に備えての技術開発検討等の推進
- EPs TA（第2版）成果物の作成に努力を傾注していく。
 - 1: API Version of EPs Technical Artefacts
 - 2: Technical Artefacts for Sustainability Claim and related classes to be developed
 - 3: The other related BIEs and codes developed and updated

ウ. 国連CEFACTの開発技術の理解習得等

- 注) 今後EPs TA(第1版)等の内容理解をふまえて、具体的に事業化を図る事業者に対してコンサルティングができる能力を持つようにする。

1. 活動の趣旨_2

エ. 開発指導が可能なJTREC内のコンサルティング能力の向上に資するために、当検討会において「技術研修」を行う。研修は以下の2部構成で推進する。

- A－国連CEFACTの開発手順（鈴木理事担当） - 体験プログラムを例題として
- B－国連CEFACTが新たに推進するAPI技術（分担して推進）

1. 活動の趣旨_3

- 研修内容とスケジュール

番号	項目	実施予定日	担当者	記事
1	ODP (Open Development Procedure), BRS (Business Requirements Specification) 記述	6月15日	鈴木	
2	Use Case図、他のUML図	6月15日	鈴木	
3	Class図	7月20日	鈴木	
4	Business用語集	7月20日	鈴木	
5	Code表	8月17日	鈴木	
6	Core Components Technical Specification	10月19日	鈴木	
7	BIEsとCCL, XML Naming and Design Rules	11月16日	鈴木	
8	API (Restful API)	12月21日	分担	
9	JSON LD	1月18日	分担	
10	JSON Schema and Open API NDR(Naming and Design Rules)	2月15日	分担	

2. 実施体制

- EPs AT（第1版）参加者や関心のある方に当検討会の趣旨を示し、参加の慫慂をする。
- 会員は原則、自己の分担する事項について資料を作成し、検討会の場で説明する。
- 開催日については、定例のJEC観光部会に合わせて開催することになっている。
- 「技術研修」を含めると開催時間が不足するおそれがあり、以前のST、EPsプロジェクトのように観光部会開催の中日にGTMで開催することも考えられる。

3. その他の検討課題

- EPs（第1次分）の使い方の検討と不足する情報項目等の有無について
- Codeの対応について
- API研修における分担について
 - 1) API（Restful API）
 - 2) JSON LD
 - 3) JSON Schema and Open API NDR(Naming and Design Rules)
- 国連CEFACT T/TDomainのProjectの推進に貢献するOutputの提出について

4. 旅行観光部門による期待される貢献_1

第40回国連CEFACT フォーラムにおける旅行観光部門（T/T Domain）での公開セッションで、鈴木理事から「旅行観光部門によるどのような貢献が期待されるか」と題して、以下の事項が提示されたので、ここに再掲する。

- 1) 世界の旅行観光部門の中小企業への支援：業界大手が思うようにふるまう中で、多くの中小企業は技術的に後れを取り、自社のビジネスに適用する基準を設ける必要に迫られている。EPs TAのような国連CEFACT標準は、そうした中小企業に適用することが可能となる。
- 2) 中小企業を結ぶネットワークの構築：その一例として、図1に中小企業システムの適用可能なネットワーク構想を示す。
- 3) 中小企業のバックオフィス業務の円滑化：バックオフィス業務、すなわち見積、支払い、旅程、レビュー等の依頼・返答業務を円滑化する。
- 4) EPs TAのさらなる遂行：旅行観光部門で開発されたEPs TAは商品取引や情報交換にとどまらず、当部門のあらゆる商品や情報に適用可能である。
- 5) クラス情報の更新：クラスの積重ねを通じて、CCLの拡充が図られる。

4. 旅行観光部門による期待される貢献_2

- 6) SDGsの促進：EPs TAは持続可能性主張を有し、プロジェクト（第2版）で例示化されることになるが、当部門の他の商品にも顧客に持続可能性主張を示す同様なクラスを付加することが可能である。
- 7) セキュリティシステムによる保護：旅行データには個人情報が多く含まれ、当然保護されるべきであるが、旅行観光サイトでは顧客にセキュリティレベルの高さを示し、それに関連した技術仕様がわかるように提供されることが必要である。
- 8) 多言語対応：テキストによる適正な記述は多言語で表現してきたが、AIによる翻訳技術の向上にともない、その活用が実務にも適用可能となってきた。
- 9) 新技術の導入：旅行観光部門ではAPIを開発する段階に進んでおり、EPsのAPI変換も完成しようとしている。当部門ではブロックチェーン、XR、AIのような先進技術についてもさらに研究を進める。

4. 旅行観光部門による期待される貢献₃

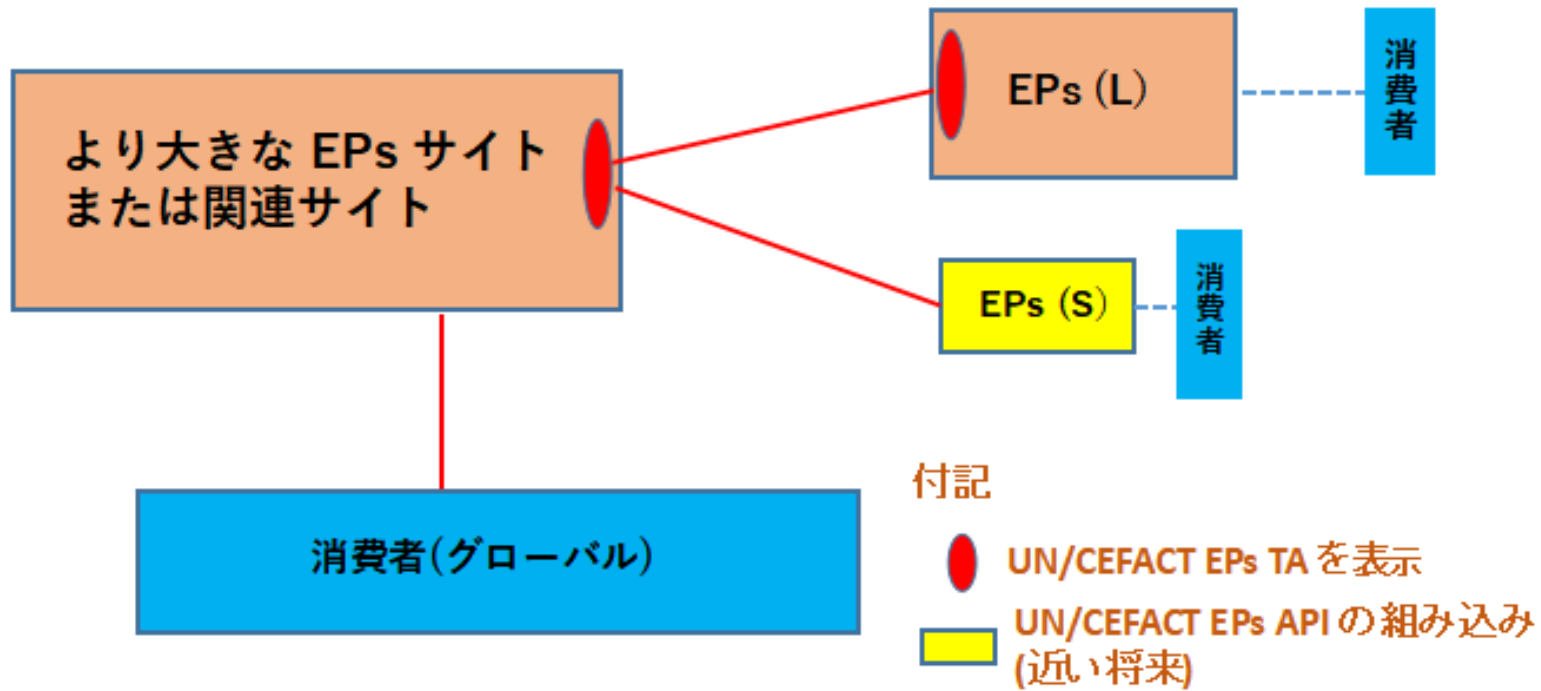


図1 中小企業が連携するネットワーク構想 案鈴木理事作成